

授業科目名 科目コード	財務戦略 (Strategic Financial Management) 2037-2-33-111					担当教員	栗井 英大 (クリイ ヒデヒロ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	3 年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要

財務戦略とは、企業活動において、資金の流れを積極的にコントロールすることである。すなわち、企業を経営していく上では、企業戦略の策定と同時にその実効性を確保するための資金の流れを理解していなければならない。なぜなら、企業における資金の流れは、人間における血液の流れと同様の役割を果たしており、その活動を継続していく上で必要不可欠だからである。

そこで、本科目では、主に企業の視点から資金調達の手法を学ぶ。企業経営における財務戦略の重要性について説明した後、企業における資金調達の主な手法（直接金融・間接金融）の概要と日本企業・中小企業における特徴を検討する。

本講義を通じて、企業における財務戦略の重要性、および各種資金調達方法の相違点を理解し、説明できるようになる。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

2 職業人として通用する能力 / 3 専門的知識・技能を活用する能力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

講義は、パワーポイントを活用し講義を行い、書き込み式の配付資料の空欄を学生自ら埋めていく方法で進める。また、講義冒頭では、記憶の再生、定着を促すために、前回講義の復習を行う。

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。

日々の社会的な出来事も積極的に取り上げるほか、学生の意見を取り入れつつ、講義を進める。そのため、授業内容が変更となる場合がある。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

特になし

⑤ テキスト（教科書）

テキスト指定なし。授業開始時にレジュメを配布する。

⑥ 参考図書・指定図書

齋藤裕 (2012) 『金融業界大研究』 産学社

その他、テーマに関連した参考文献や関連情報を必要に応じ紹介する。

⑦ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 企業における資金調達の重要性を理解・説明することができる。 (ii) 金融機関借入の方法を理解・説明することができる。 (iii) 社債・株式等による資金調達の方法を理解・説明することができる。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 企業における資金調達の重要性の理解・説明	企業における資金調達の重要性に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	企業における資金調達の重要性に関して、資料等に頼らず説明できる	企業における資金調達の重要性に関して、資料等を見ながら説明できる	企業における資金調達の重要性に関して、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	企業における資金調達の重要性に関して、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(ii) 金融機関借入の方法の理解・説明	金融機関借入の方法に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	金融機関借入の方法に関して、資料等に頼らず説明できる	金融機関借入の方法に関して、資料等を見ながら説明できる	金融機関借入の方法に関して、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	金融機関借入の方法に関して、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(iii) 社債・株式等による資金調達手法の理解・説明	社債・株式等による資金調達の方法に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	社債・株式等による資金調達の方法に関して、資料等に頼らず説明できる	社債・株式等による資金調達の方法に関して、資料等を見ながら説明できる	社債・株式等による資金調達の方法に関して、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	社債・株式等による資金調達の方法に関して、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%			30%		10%		100%
(i) 企業における資金調達の重要性の理解・説明	20%			10%		4%		34%

(ii) 金融機関借入の方法の理解・説明	20%			10%		3%		33%
(iii) 社債・株式等による資金調達手法の理解・説明	20%			10%		3%		33%
フィードバックの方法	初回講義内で、成績評価の方法・基準、講義の進め方、試験の方法等について、具体的に説明するので、出席すること。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
学生の理解度・習熟度を確認しながら、講義を進めていく。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	講義ガイダンス 株式会社とは	講義の復習 財務諸表と企業の資金調達の方法	120分
2	B/SとP/L～資金の調達と運用	講義の復習、黒字倒産とは 利益とキャッシュフローの相違点	120分
3	キャッシュフロー	講義の復習 新潟県の地方銀行	120分
4	金融機関とは	講義の復習 企業にとってのメインバンク	120分
5	メインバンク	講義の復習 銀行借入の方法・手順	120分
6	銀行借入	講義の復習 変動金利と固定金利	120分
7	金利	講義の復習、貸出金利の決定方法、 事業者融資のスコアリングシステム	120分
8	借入金利の決定要因	講義の復習 保証人と連携保証人	120分
9	借入と担保①人的担保	講義の復習 抵当権と根抵当権、有価証券担保	120分
10	借入と担保②物的担保	講義の復習、借入と社債と株式 みらい応援私募債	120分
11	社債	講義の復習、東京証券取引所第1部 への新規上場要件	120分
12	株式公開の意義	講義の復習 新潟県に本社を置く上場企業	120分

13	株式上場と増資	講義の復習 県内上場企業の有価証券報告書	120分
14	クラウドファンディング	講義の復習 クラウドファンディング活用事例	120分
15	企業間信用と経営戦略 講義のまとめ	講義の復習 期末試験に向けた準備学習	120分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。

- ・ 毎回講義中に課題・問題を出すことにより、インプット型の講義に加えて、学生の知識のアウトプットも重視し、知識の定着を目指す。
- ・ 前回講義中に受け付けた質問・感想、及び宿題の内容について、講義中にフィードバックを行うことで、理解度を高めていく。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

平成 9 (1997) 年 4 月～平成 28 (2016) 年 3 月まで、株式会社第四銀行に在籍。そのうち、平成 15 (2003) 年 3 月～平成 24 (2012) 年 6 月まで、(財)新潟経済社会リサーチセンターに在籍。研究員として、新潟県経済の調査分析および業界動向等の調査レポート作成業務に従事した。

実務経験と授業科目との関連性

地域金融機関に勤務した経験を生かし、借入を中心とした企業の資金調達の方法について具体的な事例を交えつつ、分かりやすく紹介する。